



■発行
早稲田大学校友会
鹿 児 島 県 支 部

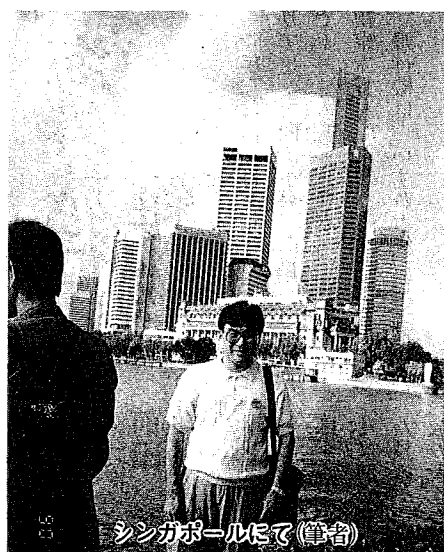
■住所
鹿 児 島 市 金 生 町 3-1
山 形 屋 本 部 秘 書 室
☎0992-27-6310(代)

シンガポールと 香港人民裁判

「さつま屋」取締役企画部長
古 謝 将 太 郎 (S61年商学部卒)

早稲田大学鹿児島稲門会による海外経済交流が行われた。参加者は松元茂団長を始めとする総員十七名で、シンガポールと香港を視察し、現地で活躍する日本人や稲門会の人々と親しく意見を交換するなど、大変有意義な旅行であった。

二十四時間体制のこの空港は、シンガポールの発展を象徴するように急速に増加する利用に対応して、現在も大規模な拡張工事中である。チャンギ国際空港から約一時間、海沿いの快適なハイウェイを市内に向けて走ると、海岸線は美しい砂浜が何キロも続き、市民の海水浴場として親しまれている。一方、沖合いに目を移すと世界中の何十何百隻というタンカーや貨物船が



シンガポールにて(筆者)

この港に錨を下ろしており、南国の眩しい太陽の下、シンガポールらしい光景が続いていた。バスが市内に入ると超高層ビルが立ち並び、活気にあふれた大都市の様相を呈している。一行の宿「カールトンホテル」



シンガポール 稲門会との交流会

は市の中心部にあり、近代的な高級ホテルで、部屋は広々とし、大きな窓から市内が一望できた。

翌二十三日、一行はシンガポール市内観光に出発。中国寺院見学後、マリナスクエアに到着。ここはシンガポールのウオーターフロント開発により、都市と水際の見事な調和が実現された場所。シンガポールの象徴シーライオンも見える。市郊外の植物園では熱帯性の美しい花々をバックに、盛んにカメラのシャッターが押されていた。その夜、現地の日本航空支店長の招きで懇談会が行われ、めずらしいマレーシア風中華料理が饗された。

翌二十四日、一行は船によるシンガポール近海のクルージングに出発。この船は日航が半分所有しており、船上ではバイキングスタイルのランチを楽しんだ。海は大変美しく、デッキの潮風は心地良

く、ビールがうまい。その後自由行動となり、我々はセントーサ島へ出掛けた。この島は、全島が観光開発されており、モノレールで島を一周できる。

歴史資料館を訪れると、山下將軍と英将パーシバルの蠟人形があり、当時の英軍降服の様子が再現されていた。住民票などには、マレーシア人の名前や住所がカタカナで書かれていて、奇妙な感じがする。遙々こんな所まで日本であつたのかと複雑な感じを受けた。

その夜、シンガポール稲門会との意見交換会が行われた。当地は赤道に近く、思いのほか暑い。日中は三十度を超え、日差しは肌に突き刺さるようだ。よくこんな所に人が住み、大都市が出来たものだと思心するほどの暑さである。その為、当地の日本人は皆、顔がわからないほど真っ黒である。服も極めて軽装である。シンガポール稲門会と鹿児島稲門会の交流は夜更けまで続き、南十字星の輝く美しい島の夜空に「都の西北」は高々と歌われた。

翌二十五日、一行はシンガポールを後に香港へと向かう。啓徳空港で一行は鹿児島県香港駐在員、鹿銀香港駐在員事務所長の出迎えを受け即刻、香港コンベンションセンターへ向かった。このセンターはアジア最大のコンベンション施設で、二層にわたる広大な展示会場や二つの大型シアターホー

ル、大宴会場、何十もの会議室を備えた巨大な建物である。ホールからはピクトリアハーバーが見渡せ、ウオーターフロントを組み入れた見事な演出がなされている。

その後、鹿銀香港駐在員事務所では香港経済のセミナーを受け、夕食は鹿銀の招きにより本格的な中華料理であった。香港の宿は日本航空の馬場氏の尽力により、超デラックスな香港日航ホテルに泊まることが出来た。部屋は大変ゴージャスで、外国のホテルに無い様々な日本のサービスが行き届いていた。

旅も終わりに近づき、一行の気持ちもリラックスしたのか、ユーモラスな出来事があった。日航ホテルのロビーで、翌日の香港出国時の空港税を集めている時だった。一人当たり二〇ドルずつ集めたのだが、どういうわけか一人分足りない。お金を集めた人は、皆から本人が払っていないのではないかと問われたり、とうとう一人一人が疑いの目で見られて「いや、ぼくは払ってます」と言う始末。そこへよっこり現れたX氏、「今、フロントで二〇ドル両替しただけどないかあったとけ?」一同大爆笑となり、人民裁判はあつてなく幕を閉じた。斯く言う私も、バスの出発に遅れて「香港で誘拐されたのでは」と冷やかされてしまったのでした。

ともかく、一行誰も有罪判決を受けず無事に帰国できたのでした。

海外旅行

雑感

安田信託銀行 鹿兒島支店長

前田 幹郎 (S40年法学部卒)

昨年六月に全日空でオーストラリアに十日間、十月には日本航空でイギリスとアメリカに二週間の視察旅行をした。

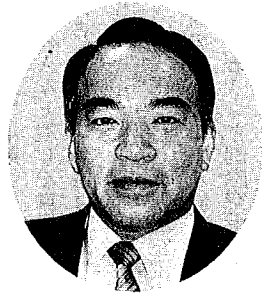
飛行機は、いずれも総重量三百

トンという巨体で、海に入ればそのままズブズブと沈んでしまうはずのものが、なぜかフワリと空中に舞いあがる。人類が生み出した技術の空恐ろしさを、恐怖と畏敬の入り混じった心境で、ジャンボに乗るたびに感じる。

さることながら、日本語・英語・中国語の三ヶ国語で臨機応変にサービスする頭脳の明晰さは、パンナムやBAにはついぞ見られなかった。

オーストラリアのヘロン島という真珠ほどの小島にまで、日本のOLが甲羅干ししているのはびっくりしたが、ロンドンのホテル「インターコンティネンタル」のオーナーが日本の西武だと聴かされて、また驚いた。ロスの中心街のビルの三分の一は、日本の生保や不動産会社のものである。ワシントンに滞在中、三菱地所がニューヨークのロックフェラーセンター

を買収したというニュースが飛び込んだ。日本の金余り、債権大國ぶりを象徴する出来事であるが、現場でこれだけのものを目のあたりにすると、いくら日本人でも「ちよつとやり過ぎじゃないか」という感慨を禁じ得ず、居心地が悪い。アメリカの治安はどこも全くデタラメで、当社の社員をぞとイレに行くのに鍵が要る(各人鍵を持っている)有様で、階段などはもちろん危なくて歩けない。ただ、一般市民のマナー・エチケットは実にすばらしく、とても日本人はかなわぬなあと感じ入る。若い女性が気軽に記念写真に納まつて



シリーズ

集まり散じて

(3)

現場

百回

鹿兒島県警察本部長

緒方 右武 (S43年法学部卒)

警察社会に入って一年余りたったとき、勤務していた警察署管内で殺人事件が発生した。運よく？未熟な私も捜査本部の一員となり、張り切っていたところ、本部捜査一課の警部から次から次へと質問が飛んできた。

「現場のカーテンの色や柄はど

んなだったか」。そんなことは現場写真を見れば分かると思い、取り寄せてみると、悲しいことに写真はカラーではなかった。警部の要求する色は？現場まで片道三十分の道程を自転車をこいで行かなければならなかった。これでも当時

警部はあきれた顔をして現場観察について話した。「君は現場で何を見たのか？ 仏さん(被害者)の顔しか見ていないのだから。事件を解くカギは現場全体にあるもので、現場の一部のみ観察しては大事なものを見落としてしまう。事件の経験が少ないと、どうしても被害者の顔ばかりに吸いこまれてしまい、かんじんの殺し方さえ観察しないことがある」

「捜査は現場百回といわれているが、君のは何回行っても無駄だ。ただ単に見ればよいというだけではだめだ。この事件の特徴はどこにあるのか、犯人は顔見知りか、流しか、などと現場は読みとるよう

に観察するものだ」
現在、離島警察署六署を含む全警察署二十八署を巡り、現地の駐在所・交番所に勤務している警察官と語り、初任時代の「現場百回」の教えを思い出しながら、鹿兒島県警の情勢を現場から掴もうとしている毎日である。

いかがわしいクラブ?

アーバン・ウェルネス・クラブエルグ支配人

津曲 貞利 (S55年法学部卒)



「ありがとうございます。アーバンウェルネス・クラブ・エルグでございます」
「クラブ・エルグですね」

「はっはい、さようでございますが……」

「ちよっとお尋ねしますが、おたくは一体どういう会員制のクラブなんですか?」

「……とおっしゃいますと?」

「今日、おたくから主人宛にダイレクトメールが届いたのですが、うちの主人は私に一言も言わずに内緒でおたくに入会しているんです。ダイレクトメールでは会員制クラブと書いてありますが、まさか人様に言えないようないかがわしいクラブではないんでしょうね」

「いえ、その：手前どものクラブは、いわゆるスポーツクラブでございますまして、純然たる健康づくりのための……」

と、まあオープン当初はこのような電話もしょっちゅうかかって来たエルグも、この五月に一周年を迎え、ようやく鹿児島市の皆様に覚えて頂けるようになったようです。この「アーバン・ウェルネス・クラブ・エルグ」という名称ですが、アーバンとは文字通り都会という意味です。ウェルネスとは、心地良い、快適なという意味の「WELL」の名詞形で一九六〇年代にアメリカで生まれた造語です。当時、物質的に最も恵まれ、いわゆる飽食の時代を迎えていたアメリカではもう一度人間の原点に戻り、人間として真に快適で充実した生活を送るために自らの身体を鍛え、精



エルグ全景

る株式会社ニチガスクリエートの親会社が都市ガスエネルギーを扱っている日本ガスであるということもあり、親会社との接点をこのエルグで表わした訳です。

私は、現在当クラブの支配人という分不相応な大役を仰せつかっておりますが、もともとは日本ガスの社員であり、当プロジェクトの当初から関

神を安定させ、心身ともにベストコンディションを心がけようとする「ウェルネス運動」が展開されました。単なるスポーツクラブでなく、エルグで得られる健康を生活の中にしっかりと組み込んで頂くことをコンセプトにしていた私どもにとっては、スポーツあるいはフィットネスという言葉より、更に広い概念で肉体的鍛練と精神的な満足を意味する「ウェルネス」という言葉はまさしくピタリと当てはまるものでした。

そして「エルグ」(ERG)ですが、これはエネルギーを表わす原単位で一秒間に一グラムのもを一センチ動かすエネルギーを「エルグ」と言います。身体を動かすことも、ある意味ではエネルギーの発散であり、このエルグを運営す

って、そのまま子会社に出向した訳です。このエルグプロジェクトが始まったのは今から五年前で、当時まだ操業中であつた日本ガス塩屋工場の老朽化に伴い、その廃問題と跡地利用を考案するプロジェクト・チームとしてスタートしました。鹿児島における日本ガスの企業イメージ、そしてこれから日本ガスグループとして進んでいくべき方向、更には社会と企業との関り方等、様々な観点から検討を重ねた結果、「健康を生活の中にとり込んだ暮らし方を提案する総合健康産業」を新しいビジネスとして選択をした訳ですが、私はその企画責任者として出向をして実際の業務に携わることになりました。今まで、ガスの仕事しかやったことのない自分にとって、健康ビ

ジネスというものは将来像はおぼろげながら見えているとしても全く未知の分野で、果たしてうまくやつていけるかどうか不安が募り、何度か眠れない夜も経験しました。が、しかし最後まで情熱を失わずにやつてこれたのも、早稲田で培った進取の気性と、自分の可能性にかけてみたからです。

幸い、業績の方は今のところ順調に推移しておりますが、これもひとえに会社や学友を中心とする

第13回

早慶対抗
ゴルフ大会

第十三回目の「華の早慶戦」が、四月二十二日(日)喜入カントリークラブで行われました。喜入カントリークラブでの早慶戦は初めてという事で(昨年十月オープン)、かなりのメンバーが



顔をそろえると期待したのですが、あいにくの雨にもたたられ、早慶合わせて十九名とさびしい開催となりました。(早稲田十名、慶応九名) 結果は、慶応義塾大学がネット

で7・4の差をつけて優勝、通算成績でも8勝5敗と一つ差が広がり、早稲田としては無念の涙を飲んだわけです。個人の部でも、慶応の本坊浩幸さん(薩摩酒造)が、アウト43、イン41、トータル84、ネット69・6で優勝。ちなみに、ハンデいに恵まれた私が二位となりました。今回の反省として、毎回上位に顔を出している川畑氏(46年商)

時の流れは早い。早稲田大学が輝かしい百周年を迎えたのは、一九八二年のことであった。あの時から早八

二十一世紀の早稲田

て学生生活を楽しんでいることであらう。終戦後のあの学生ホールで、教える位の米粒しか浮かんでない雑炊をすすり作り、母校に学んだ我々には感慨一入のものがある。しかし、過去をいつまでも追憶するだけでは取り残されてしまう。昔の二十年、三十年は、僅か二、三年のスピードで過ぎてしまう時

松元 茂 (S25年政経学部卒)

原総長より設計図「二十一世紀の早稲田大学」の一冊の本が届いた。二十一世紀(初頭)には早稲田大学は世界の中で、日本の中でどのような大学であるべきが、百二十頁に及ぶ西原総長の「設計図」試集を読んで、二十一世紀には一段と輝かしい世界のワセダを見るような気がする。名総長とうたわれた西原総長も、この十一月で八年の任期が終了する。

百周年記念事業の人間科学部の誕生を始め、皆さんに馴染み深かった大隈講堂横の学生ホールも新しい建物に変わり、この四月の新入生を迎えている筈である。生まれ乍らにしてテレビ・冷蔵庫のある家庭に育った豊かな時代の新入生が、この立派な学生ホールも当然のこととし

代である。この二月下旬、シンガポールを訪れたとき驚いたことは、二百有余のワセダマンが活躍している姿であった。都の西北ワセダの杜に集まり、そして散じて世界各地で活躍している校友の姿を想像するとき、国際化社会の到来を実感せずにはおられない。シンガポールより帰鹿早々、西

七月二十八日(土)は、鹿兒島支部総会で挨拶を聞く最後のチャンスである。どうぞ校友諸兄沢山集っていただき、西原総長の設計図「二十一世紀の早稲田大学」の話を聞こうではありませんか、そして皆と肩を組んで「都の西北」を高らかに歌いましょう。

上位十名成績

順位	名前	ネット	HDC	トータル	アウト	イン	順位	名前	ネット	HDC	トータル	アウト	イン
優勝	本坊 浩幸(K)	69.6	14.4	84	41	43	6位	石原 石(K)	75	24	99	52	47
準優勝	大西 儀朋(W)	72.4	21.6	94	46	48	7位	吉田 守(W)	75.2	16.8	92	44	48
3位	玉川 文生(W)	73.2	10.8	84	42	42	8位	内村 二郎(K)	75.2	28.8	104	55	49
4位	下唐湊行雄(W)	73.8	25.2	99	50	49	9位	柴立 鉄彦(K)	75.8	19.2	95	47	48
5位	馬場 隆志(K)	74.2	22.8	97	44	53	10位	繁昌 正流(W)	77.2	28.8	106	51	55

や、吉田氏(30年教)などが不調で思うようにスコアが伸びず、また最もポイントゲッターである馬場氏(45年教)に御不幸があり、不参加であった事も敗戦の一つにあげられると思われまます。幹事の私としましても、今回は大武山キャプテンを中心に、ベストメンバーで臨んで行きたい所存ですので、予定数を超えるくらいの御参加を宜しく願います。鹿兒島海陸運送取締役営業部長 幹事 大西 儀朋 (S59年教育学部卒)

編集後記

第3号の出来栄は、いかがでしたでしょうか。これからも様々な分野で活躍している校友を、数多く紹介していくつもりです。会員の皆様のご協力をお願いします。 会報委員

- 中村 眞 磯 大作
- 久保 英司 辛島 史朗
- 大西 儀朋